

令和2年度 研修会 開催報告

令和2年度の研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、リモートでの開催とさせていただきました。受講いただきました皆様からは、新しい研修会の在り方について、多くのご理解をいただき、誠にありがとうございました。

また、講師の先生方におかれましても、これまでとは違う環境での開催にもかかわらず、ご尽力賜りました事、重ねて御礼申し上げます。

第1回総合診療力向上講座 (Web 講習会)

【開催日】令和2年10月3日(土)14:30～15:30

【テーマ】

【Mimicker (ミミッカー)～悩ましき似て非なるもの～】

【講 師】

洛和会音羽病院 総合内科・リウマチ部門 部長
谷口 洋貴氏

【参 加】医師187名

第1回京都在宅医療塾Ⅰ～探究編～ (Web 講習会)

【開催日】令和2年11月15日(日)10:00～11:30

【テーマ】

【在宅医療の現場で出会いがちな精神疾患に関わる
対応困難な事例～【見立て(みたて)】が大切です～】

【講 師】

京都府医師会 理事
医療法人同仁会(社団)京都九条病院 精神科・心療内科
医療法人同仁会(社団)介護事業部 事業部長統括医師
京都市唐橋地域包括支援センター センター長
西村 幸秀氏

【参 加】医師116名 多職種29名

第2回総合診療力向上講座 (Web 講習会)

【開催日】令和2年10月31日(土)14:30～15:30

【テーマ】

【ショック患者の身体診察】

【講 師】

洛和会丸太町病院 救急・総合診療科 部長
上田 剛士氏

【参 加】医師192名

かかりつけ医認知症対応力向上研修 (事前収録型 Web 講習会)

～前半 Part～

【開催日】令和3年1月16日(土)14:00～15:30
令和3年1月23日(土)14:00～15:30

【テーマ】「診断と治療」

【講 師】

北山病院 院長
澤田 親男氏(認知症サポート医幹事)

【参 加】医師155名 多職種15名

～後半 Part～

【開催日】令和3年2月13日(土)14:00～16:00
令和3年2月20日(土)14:00～16:00

【テーマ】「かかりつけ医の役割」「連携と制度」

【講 師】

京都府立医科大学大学院 医学研究科
精神機能病態学 精神医学教室 教授
成本 迅氏(認知症サポート医幹事)

【参 加】医師153名 多職種12名

令和3年度サポートセンター事業

令和2年度京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター(以下、サポートセンター)事業は、新型コロナウイルスの感染蔓延により大幅な事業変更を余儀なくされました。この大変だった一年を振り返り、「〇〇の事業が中止になって、困った、寂しかった」、「もっとこういう事業をしてほしい」な

どのご意見をサポートセンターまでお聞かせ下さい。令和3年度は感染対策を考慮した上で、在宅医療・地域包括ケアの現場からのお声を元に引き続き、在宅医療推進に必要な事業開催を考えてまいります。決定次第広報させていただきますので今後の当ニュースや府医ホームページをご注目下さい。



京都 在宅医療

検索

詳細は順次、京都医報、当センターホームページでご案内いたします。

在宅医療に関する質問があればお問い合わせください。サポートセンターと保険医療課で連携し回答いたします。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階
tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

京都府医師会

在宅医療・地域包括ケア サポートセンター news

Vol. 38

2021年3月15日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news は奇数月15日の発行です。
※当センターホームページにてバックナンバーがお読みいただけます。

Main menu

- ◆ 私の往診・訪問診療カバン(P2～3)
- ◆ こんな往診・訪問診療カバンも(P3)
- ◆ 令和2年度 研修会 開催報告(P4)
- ◆ 令和3年度サポートセンター事業(P4)

私の往診・訪問診療カバン

インタビューさせていただきました！

1. 貴院での訪問診療の患者さんはどのくらいいますか？

120人を診ています。疾患別では、認知症4割・慢性臓器障害4割・ガン末期1割・神経難病等1割になります。病状安定している6～7割の患者さんは、月1回の訪問にしています。

2. 訪問診療で心がけていることを教えてください。

患者さんの看取りまでの軌跡を思い描いておくこと、五手先を予想して、三手先を読み、一手先の診療をする、医療だけに頼らずに、生活の中で落としどころを探していくことを心がけています。
そして、忘れ物をしないこと(特に遠方のとき)が大事です。

3. これから訪問診療をはじめめる先生に一言お願いします。

外来で信頼関係があり通院困難になられた患者さんからスタートしてみてもいいでしょう。
患者さんの生活をみて介護サービスをみて、内服可能な処方をする、多職種と良い関係を築くことが訪問診療では大切です(医師が一番と思わない)。

4. 訪問診療に必ず必要なものを教えてください。

長谷川式認知症スケールの用意、ニッパー(爪切りは積極的に)筆談用のホワイトボードなどです。

5. こだわりの機器などはございますか？

ポータブルエコーですね。肺エコーによりうっ血性心不全と肺炎の鑑別ができます。(第45回京都医学会発表)

伊藤先生のカバンの中身



イトウ診療所(右京医師会) 院長
京都府医師会 地域ケア委員会 副委員長
伊藤 照明氏

私の往診・訪問診療カバン

勅使川原先生のカバンの中身



よしき往診クリニック 医師

勅使川原 学氏



※高齢者とのコミュニケーションをサポートするもの。
高齢者の聞こえの特徴として、音がこもって聴こえることで言葉として認識できにくいということがあり、このスピーカーはマイクから入力した音を聴きとりやすいクリアな音に変換します。

インタビューさせていただきました！

1. 貴院での訪問診療の患者さんはどのくらいいますか？

全体として診ているのは300名ほどです。
当院は往診専門のクリニックで、常勤の医師が4名、非常勤の医師が10数名在籍しており、それぞれが主治医として訪問診療をしています。私は1日にだいたい10名、多い時では14名ほどの患者さんを診ています。
癌末期の患者さんや心不全の患者さんが多く、緩和治療や心不全評価等でポータブルエコー等はたびたび使用しております。

2. 訪問診療で心がけていることを教えてください。

患者さんとその家族がハッピーになるために何でもする、そんな気持ちで診療をしています。「ハッピー」の範囲は人によって違うこともありますが、スタッフも含めて、それぞれができる事を行っています。物であふれているご自宅の掃除をしたり、患者さんの眼鏡フレームを治したり、冷蔵庫の霜とりまで…在宅なので患者さんとの関係性がとても大切になります。良い関係を築いていくために、とりあえず何でもやってみる！という気持ちでいます。

3. これから訪問診療をはじめる先生に一言お願いします。

一緒に楽しみましょう！！
例えば、「在宅の看取り」というと、どうしてもナーバスなイメージがつきがちですが、楽しく過ごせたり、悲しいけれど家族が笑ってお見送りができたり…すごくやりがいを感じます。患者さんとの距離感が近い訪問診療だからこそ感じられるやりがいがあると思います。

4. 訪問診療に必ず必要なものを教えてください。

メディカルコーディネーター（以下、MCと省略）です！！
当院独自のMCという役割で、何かものを忘れたりとか、物品がなかったりしてもMCがいてくれることで、すぐに診療所と連絡が取れます。物品の補充や、スケジューリング等、それらを医師一人で診療しながらこなすのは絶対無理です。MCという役割は、職種・資格にもこだわっておらず、看護師、薬剤師、元不動産業の方もいます。在宅医療は、いろんな背景を持って生活している人の中に入っていくので、そこに溶け込んでいくためには結局、社会に開かれていないといけなくて、医療者以外の立場の方が入ってくることも大事だと思います。彼らがいなかったら僕は成り立っていないですね。なので必ず一緒に動いています。

5. こだわりの機器などはございますか？

対話支援機器システム「コミュニケーション」です。聞き取りが難しい高齢者へ音声を届ける機械ですが、コミュニケーションがスムーズになり、とてもおすすめです。
当院独自で珍しいな、と思うのはポータブル眼圧器です。目の事ってすごく特殊なので眼科にお願いするのですが、「目が痛い！」「頭が痛い！」という時に眼圧の状態を診ることで「緑内障」については除外できることもあるので便利です。

こんな往診・訪問診療カバンも

今回、本 news の企画として在宅医療の経験豊富な3名の先生にご自身の往診・訪問診療カバンをご紹介いただきました。無理なお願いにも関わらず快くご協力いただきありがとうございました。取材の中で、各先生が患者さんやそのご家族・多職種の方との信頼関係を築くことを大切に診療されていることが、たくさんのカバンの中身一つ一つから感じられました。これから訪問診療を始められる先生をはじめ、在宅医療に携われる皆様のご参考になれば幸いです。

最後に、釣り用のリュックベストを活用して、訪問診療の患者さん50人を主に自転車で訪問されている先生のカバンもご紹介します。

